伸び縮み

1．ガガンボ

暖かくなってくると現れます。カ（蚊）の仲間と思っている人がありますが、人から血を吸うことはありません。2枚の後翅が平均桿に変化して翅が2枚であることから双翅目と呼ばれるハエ、カ、アブと同じ分類群です。

打吹山にもいるミカドガガンボは所有している標本で体長4cm、脚が8.5cmもあり巨大ですが、ほとんどのガガンボはカを大きくしたレベルです。特徴は体長に比べて異常に細く長い脚です。ベッコウガガンボのようにガガンボらしくない種もありますが、長い脚をぶら下げてゆっくり飛行し、短距離で止まる姿は脚が邪魔になっているとしかみえません。ザトウムシも長い脚をしていますが、周囲を探索しながら歩いているので、これは役立っているようにみえます。

キイロガガンボ

ベッコウガガンボ

アカサビザトウムシ

ガガンボは長い脚を持つことに利益があったから生存していると考えますが、その役目がわかりません。節足動物は硬い殻のパイプをつないだ脚の関節部分が弱くて取れやすくなっています。弱点かもしれませんが、敵に襲われた時に脚だけ残して本体が逃げる「自切」というしくみだと考えられています。ガガンボは、特に力がかかると脚がすぐ取れてしまいます。脚を長くすると細くしなければならない、細い脚で支える体は軽く小さくする必要、強い捕食者にはなれない、何が原因でどれが結果なのでしょうか。幼虫は、土中や水中で生きた植物でも死んだ植物でも食べ、成虫になると液体だけを食べて寿命は10日くらいということです。脚の長い理由を考えてみてください。

2．アセビの花筒

アセビは3月になると開花します。ツツジ科で細い根をしていますが、乾燥したやせ地で日当たりが良い場所を好み、打吹山にはあまり多くありません。毒が強いため、なんでも食べるシカでさえ食べず、シカの多い場所でも残る植物です。花木として人気があり、打吹山では植栽されているところもあります。日陰になってしまうと、花がつきません。

アセビ花穂

開花直後

開花末期

花は穂状に付き、根元から開花していきますから無限花序です（No.153参照）。ドウダンツツジのようなつぼ形の花冠で先端は5つに分かれています。このつぼの口に相当する部分を注意して見てください。花冠はかなり長く残っていますので、開花時期の差を比較することができます。写真は開花直後のものと開花から時間が経った（開花末期）のものです。時間を経ったものはつぼが深くなっています。口をよく見ると、開花直後は雌しべの先端が外まで伸びています（矢印）。これは時間とともに花冠が伸びていったことを示します。

開花初期には雌しべの先端は外に出ていたものが、やがて内部に収納されることになります。この時期はまだ寒く、昆虫では越冬していた小型のハエ類が少し来る程度です。花粉運搬を昆虫にあまり依存せず、風媒を併用していることも考えられます。

（倉吉博物館専門委員　國本洸紀　2025）